

い島嶼。

マツダイ 末代 駿河の人。近衛天皇久安の比に居た。末代富士山に登ること幾回なるを知らぬから、世に富士上人と言はれた。後又白山に攀ちて龍池の水を汲み、關東の民庶に勸めて一切經を寫さしめ、その剩す所の紙を擲へて上洛したので、鳥羽法皇も亦結縁の爲諸人に課して大般若經を寫さしめ給うた。本朝世紀には、昔天喜年中日泰といふ者があつて、白山に登つて龍池の水を汲んだが、末代人は日泰の後身であらうと記する。白山記に白山嶺上のことを述べて、『殿前緊一尺八寸罅口。依末代人傳。又立長一丈錫杖同御座。』とある。この禪頂は禪定に同じく、禪頂法皇とは落飾修禪の上皇をいふもので、即ち鳥羽法皇である。されば法皇は末代人の勸進に基づいて、此等の罅口及び錫杖を神前に獻げ給うたのであらう。

マツダカツユキ 松田克之 幼名小三郎。安政二年を以て生まれ、臨田巧一・杉本乙菊と友善であつた。十年島田一良が参議大久保利通の暗殺を企てた時、十月巧一と共に上京して政界の事情を探り、十一月四月一たび金澤に歸り、五月復東上したが、途武藏熊谷に至つて一良等が既に志を遂げたるを知り、二十二日警視廳に自首し、七月終身禁獄を命ぜられ、石川島監獄に居た。後十七年三月廿六日夜同囚自由黨員赤井景韶と共に脱獄したが、廿七日夜克之は板橋の旅舎で捕へられ、十八年七月廿五日死刑に處せられた。

マツダキユウベイ 松田久平 鹿島郡七尾の人。初名喜兵衛。家を越中屋といふた。天資英邁、商機に敏捷、初め江戸に赴いて湯屋

の三助となり、歸郷の後籬皮を越中に輸出して巨利を得、遂に船舶十餘隻、田三千八百石を有するに至つた。晩年金澤に在つて米穀の投機賣買に従ひ、七尾の老將といはれ、嘉永二年九月歿。齡八十三。七尾長福寺に歸葬した。

マツタジヨウアン 松田常安 初め玄意・紹安。父は玄宇。天明七年御醫師に召出され、寛政三年江戸に於いて歿した。子孫玄宇・常安永敬相繼ぐ。

マツタシロザエモン 松田四郎左衛門 又左馬助に作る。松田尾張守政實の三男。北條氏直の臣であつたが、氏直死後前田利長に仕へて四千石を受けた。子孫世々藩に仕へる。

マツタジロザエモン 松田次郎左衛門 一揆大將で、石川郡田井堡に據り、一方の棟梁であつた。この時同郡米泉に在る須崎兵庫は之と相拮抗したが、和睦と稱して次郎左衛門を招き、その沈酔に乗じて之を殺した。事は加那録に詳記せられる。

マツタシロベエ 松田四郎兵衛 四郎左衛門(二代)窓里の弟。一名平太夫。祿五百石。大坂再役に従軍敵首一つを得た。子孫世々藩に仕へる。

マツダスケカツ 松田典克 通稱源次郎・權太夫。祿八百石。權太夫以敬の子四郎左衛門の養子。大小將・同番頭・御先弓頭・御歩頭に歴任し、寛政三年八月組の儀につき指扣を命ぜられ、四年四月十六日自殺。子彦右衛門克直、享和二年祖父の遺跡の中三百五十石を賜はつた。

マツダタツノリ 松田立敬 鹿島郡七尾の人。久平の孫。父祖の通稱を襲いて喜兵衛又

は久平といひ、洪洲・袖陽・楠涯・棟石と號する。弱冠にして所、口町年寄と爲り、維新後鹿島郡の區長及び七尾市正に歴任して良吏といはれた。立敬書を篠崎小竹に、猿を浦上春琴に習ひ、詩歌俳句皆之を能くした。明治廿七年歿する時七十歳。

マツダタロベエ 松田太郎兵衛 祿五百石を受け、大坂再役に伊勢口で首一つを得た。末孫權太夫の時、寛政四年自殺して絶炊した。

マツダニ 松谷 能美郡輕海郷に屬する無家の地で、明治八年十月五國寺村に合併した。マツダニジ 松谷寺 能美郡松谷にあつた。白山記に中宮八院の内に松谷寺を擧げて、輕海郷だとして居る。能美名蹟志に、松谷村に寺屋敷があつて、古へ松谷寺といふたのである。白山記に『又有二靈驗社、號二楡新宮云々。建立人乃美郡輕海郷松谷住如是坊云人奉、崇之後及二百歳矣。』とある如是坊は、この松谷寺の人であつたらう。

マツダノリサト 松田窓里 通稱四郎左衛門・左馬助。父四郎左衛門の祿を分かつて二千石を領し、慶長十九年大坂の役に第四隊の統將であつた。窓里歿してその統絶え、弟四郎兵衛の系は長く傳はつた。

マツダバソウ 松田馬宗 通稱平八、後平四郎。馬宗又は帝慶齋と號した。家世々製筆を業としたが、餘技として製陶を學び、龜田商齋と共に春日山燒の窯元となつた。天保五年三月一日歿。

マツダヒラカツナリ 松平一成 通稱治右衛門。父は三河伊保城主松平紀伊守。弟は伯耆康定。前田利家の時世子に仕へ、三百五十

石を領し、大坂兩役の際には既に致仕して居たが、自ら請うて従軍し、功を以て新たに三百五十石を賜はり、元和八年歿。一成の嫡子九郎右衛門父に先だつて死し、その弟治右衛門直次後を襲いで近藤氏を稱した。

マツダヒラヤスキヨ 松平康淨 通稱玄蕃。伯耆康定の次子。慶長十三年前田利長に越中富山に仕へて四百石を受けた。大坂兩役に従ひ、再役に功があり、元和六年父の歿後その祿四千石を割いて人持組に班し、本祿四百石を弟康貞に賜はつた。承應元年歿。子孫藩に世襲する。

マツダヒラヤスサダ 松平康定 通稱久兵衛、後伯耆。父は三州伊保城主紀伊守康元。初め柴田勝家に仕へ、次いで佐々成政に仕へて二百石を受け、前田利長に轉じて五百石を食み、更に千石を加へ、天正十五年四月豊前巖石城攻撃の時前田利長に従うて出征し功を立てた。政春古兵談には、前田方一番乗は久兵衛及び太田喜藤次(但馬長知)であつたと浦生氏郷の記録にあるとする。慶長五年八月利長の丹羽長重と淺井勝隆に戦つた時、康定は水越縫殿助と一番鎧を争ひ、八月十二日その軍勢を賞せられて短刀一鞘・黄金三枚を賜はり、千五百石を加へ、翌年三千石を加へ、後又二千石を加へ、利長の隱棲に高岡に隨うて家老となり、次いで金澤時代に轉じ、大坂兩役には武者奉行となつて従軍し、後又家老となり、更に二千石を加へ累計一萬石となつた。元和六年歿、享年不詳。

マツダヒラヤスサダ 松平康貞 伯耆康定の五男で、松千代後に久兵衛と稱した。元和六年前田利常に仕へ、二兄康高・康淨の祿を